



## 特集

# 「清水のまちなか」が変わる!

～ 「明日の清水のまちづくり」を考える ～

### 「清水」を活気あふれるまちにしたい

清水は、海とともに発展してきました。20世紀後半の高度成長期、臨海部には鉄鋼業などの工場が立ち並び、港を利用した製材業も活況を呈し、さらには遠洋漁業の基地として数多くの大型漁船が寄港し、造船業も盛んでした。多彩な港湾関連産業が栄え、まちは賑わい、活気にあふれていました。

しかし、時代は移り変わり、我が国の産業構造が大きく変化する中、旧清水市の経済を支えてきた、いわゆる重厚長大型の諸産業は衰退し、1980年代をピークに人口が徐々に減り、今日に至っています。

21世紀が始まり17年。私は、この30年間の清水をめぐる産業構造の変化に的確に対応し、かつての「清水のまちなか」の活気を取り戻すことにより、清水全体を元気にしたいと強く決意しています。戦後の清水経済を支えた港湾工業都市の礎の上に、観光サービス産業や海洋エネルギー産業などの新産業を創出し、国内外から人々が訪れる「国際海洋文化都市」の実現を、これから目指すべき都市ビジョンに掲げ、新しい清水都心づくりに取り組んでまいります。

まちなかの活気を取り戻すための都市戦略の基本方針は、次の3つです。一つ目は、中心部への生活機能の集積です。

高齢化が進む社会で住みやすいまちとは、市内に住む誰もが公共交通機関を使って便利に生活できることだと言われています。そこで、JR清水駅から静鉄新清水駅のエリアに市庁舎や文化会館などの公共施設、総合病院などの医療施設、そして商店、飲食店、ホテルなどを集積させたコンパクトなまちにまいります。

二つ目は、世界中から人が集まる魅力に満ちた観光機能の向上です。

大型クルーズ船が寄港しやすい国際客船ターミナルや、海洋学の研究機能などを備えた海洋文化拠点を整備するとともに、年間を通じて、まち全体をひとつの劇場に見立て、まちのあちこちで行われる多彩な催しやイベントに参加できる、わくわくドキドキを肌で感じるまちにまいります。

そして三つ目は、地震や津波などの災害に強い防災機能の充実です。

港町として発展してきた清水は、沿岸部に中心市街地が作られています。江尻地区から日の出地区のエリアにかけて、県の整備する防潮堤、民間の皆さんの協力による津波避難ビルを増やし、万一来襲に備えて、住んでいる人はもちろん、訪れる人にとっても安心安全に過ごせるまちにまいります。

この広報しずおか特集号は、以上3つの基本方針に沿って、これから取り組む政策施策をできるだけ分かりやすくまとめたものです。

私たちは、過ぎてしまった昨日を変えることはできませんが、これから始まる明日を変えることはできるはず。先人が残してくれた清水の地域資源を最大限に活用すれば、ここに暮らす人々が安心して、ここを訪れる人々が満足する世界水準の「国際海洋文化都市」は必ず実現できると、私は信じています。

ぜひ、皆さんにこの特集号に目を通していただき、清水の将来について考え、たくさんのご意見をお寄せくださることを願っています。

活気あふれるまちづくりに、ともに一歩一歩進んでいきましょう。

静岡市長 田辺信宏





## 基本理念

### 「明日の清水のまちづくり」について

清水は、古くから海と港によって賑わい、発展してきました。先人達が港のまわりに築きあげてきたまちは、海とともに生きてきた清水にとっての原点であり、未来でもあります。

そこで、政令指定都市のスケールメリットを活かした公共投資を行い、更なる民間投資を誘発しながら、今後も、「清水都心」の機能を強化していきます。

目指す都市ビジョンは、世界水準、ワールドクラスの「国際海洋文化都市」です。

これを実現するため、次の3つを基本方針とします。

## 基本方針1

# 中心部への生活機能の集積

## 1 新「清水庁舎」を建設する ～JR清水駅と直結～

新たな「まちのシンボル」となる新しい清水庁舎とJR清水駅がペDESTリアンデッキ(高架式歩行者通路)で直結され、利便性が向上します。

商店街や公共施設などが集積するエリアへ清水庁舎が移転することで、由比や蒲原などからのアクセスが向上するとともに、買物客や施設利用者の増加が見込まれ、賑わいの創出や地域経済の活性化が促進されます。また、公共施設が集積することで、民間開発も進みます。



新「清水庁舎」イメージ ペDESTリアンデッキで直結、新「清水庁舎」へ



2

## ※1 JCHO 桜ヶ丘病院の移転を進める ～アクセスが抜群～

独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)が運営している桜ヶ丘病院が、静鉄新清水駅、JR清水駅から近く、路線バスも1日あたり200本以上走っている、アクセスが容易な現在の清水庁舎の場所に移転することで、清水区全域から通院しやすくなります。

新たに建設される病院は、リハビリ機能の充実や静岡市が進める「地域包括ケアシステム」(※2)を担う病院になることで、より一層、高齢者や障がいのある人も安心して暮らしやすくなります。

## 3 回遊性を高める

JR清水駅や新しい清水庁舎などの公共施設があるまちの中核「江尻地区」と、ウォーターフロント交流拠点「日の出地区」を結ぶ巡回バスを走らせ、子どもから大人まで全ての人がまちを巡りやすくなります。

さらに、清水港線跡歩道で賑わい空間を創出し、港からの富士山の眺望、日の出埠頭の倉庫群など、おしゃれで歩いてみたくなるまちなみをデザインし、訪れた人も楽しみながらまちを回遊できるようにします。

## 用語の解説

### ※1 JCHO(ジェイコー)

独立行政法人地域医療機能推進機構。桜ヶ丘病院を運営する組織。全国で57の病院を運営している。

### ※2 地域包括ケアシステム

住み慣れた自宅ですっと、人生の最期まで自分らしく暮らせるよう、医療・介護の連携と本人・家族を支援する仕組み。

### ※3 まちは劇場

静岡市が進める重点施策のひとつ。本市に根付いた大道芸・音楽などの文化芸術の力を活用しながら、歩くだけで「わくわくド

キドキ」するまち、語り継ぐことができ、誇りをもってもらう

# 新しい姿に生まれ変わる



## 基本方針2

## 客船を誘致する ～世界の玄関口へ～

国内外からの観光客が降りたつ玄関口として、大型クルーズ船の誘致を積極的に進めています。平成27年度の客船寄港数は14回でしたが、平成28年度は20回程度に増えており、今後も寄港数の増加が見込まれています。

また、日の出埠頭では、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、大型クルーズ船2隻が同時に接岸できる岸壁の整備計画が進められており、「世界の玄関口」にふさわしい港を目指します。



大型客船「ダイヤモンド・プリンセス」



客船の乗客で賑わう清水港

4

## 「海洋文化拠点施設」を整備する

清水港は、日本一の深さを誇る駿河湾に面し、海洋研究に関連する学術・研究機関などが集積していることから、今後、世界レベルの海洋研究拠点に発展する可能性を持っています。

そこで日の出地区に、海洋生物や海洋の成り立ち、環境、未来への可能性などの展示を総合的に行う「海洋文化拠点施設」を整備します。

この施設は、国内外から多くの人々が訪れ、海洋について理解を深める場になるとともに、大学や研究機関と連携し、人材育成や「静岡発」の新たな海洋産業の発信などが行われる「国際海洋文化都市」のシンボル施設となることを目指します。

## 魅力に観光機向

## 魅力的なイベント ～「まちは劇場」～

食・港・歴史的な建造物など多種多様なイベントが、ドキドキするようなイベントを通じて楽しいイベントがあります。また、並ぶ「シズオカ×カンヌウィーク」や「水七夕まつり」、今年70回目を迎える「富士山コスプレ世界」の劇場に見立てた「まちは劇場」が、訪れる人を喜ばせる仕掛けを増やします。



シズオカ×カンヌウィーク



清水みなと祭り



# 3. 清水都心はこうなる!



満ちた  
機能の  
上

## イベントを開催する 劇場」(※3)～

豊かな魅力を活かし、訪れた人がわくわくを催します。清水には、1年をマリンパークにマルシェ(市場)が野外コンサート、伝統ある「清水みなと祭り」、駅前商店街大会など、まち全体をひとつのプロジェクトを推進し、まちを訪れたい。



昨年、ロゴマークを製作!



## 商店街の賑わいを創る ～まちなかりノベーション(※4)～

空き店舗を活用するために、その所有者と事業者、専門家などを集め、スクールを開催し、賑わいを創るための人材育成を行います。空き店舗を活用した新たなビジネスを創り出し、駅周辺の商店街を活気あふれる商業エリアにしていきます。

## 日本一の富士山ビュー ～まちの顔を整備する～

JR清水駅からみなと口(東口)側へ直結するペDESTリアンデッキは、美しい富士山を見渡すことができる、みなととまちをつなぐ清水都心の新たな顔になります。江尻口(西口)～JR清水駅～新「清水庁舎」～河岸の市・マリナートとつながる通路は多くの人が行き交い賑わいを生み出します。

## 「清水の宝」を世界に発信する

清水には世界に誇る「オンリー・ワン」がたくさんあります。世界文化遺産三保松原、富士山の絶景、まぐろや桜えびなどは、世界に誇れる地域資源です。

桜えびは、昨年度から首都圏のメディアを活用したプロモーションを行った結果、全国のテレビや雑誌で取り上げられ、注目を集めています。また、三保松原にビジターセンターを整備し、その美しさと魅力を世界中の人にPRしていきます。

「世界の玄関口」清水都心を訪れる人たちに、まだまだたくさんある、清水の宝を発信していきます。



三保松原



桜えび

### ※4 リノベーション

(古い建物などを)修理すること。既存の施設を有効利用しつつ、用途変更をしたり機能を高めたりするなど都市の再開発の考え方。

### ※5 レベル1の地震・津波

東海地震など、発生頻度が比較的高く、発生すれば大きな被害をもたらす地震・津波。

### ※6 レベル2の地震・津波

発生頻度は数千年に一度と言われるほど極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波。



清水区の広報キャラクター「シズラ」と若手職員

### 基本方針3

## 災害に強い 防災機能の 充実

## 防潮堤を整備する

現在、防潮堤のない江尻・日の出地区に、東海地震などレベル1の地震・津波(※5)を防ぐ防潮堤が県により建設されます。この防潮堤は、清水港の景観や港で働く人の安全に配慮して設計され、レベル2の津波(※6)に対しても、浸水する区域や深さを軽減したり、津波が到達する時間を遅らせたりする「減災」の効果が期待されます。

## 地震や津波からまちを守る

新しい清水庁舎や新しいJCHO桜ヶ丘病院は、レベル2の地震や津波も考慮した、十分な耐震性能を備えた建物となります。

また、立体駐車場の屋上にヘリコプターの離発着機能を備えることなども併せて検討します。

江尻・日の出地区が賑わい、経済活動が活性化することで、多くの企業の進出による、新しい建物の建設も期待されます。沿岸部に地震や津波に強い建物が増えると、建物内の人の命を守るだけでなく、津波による流出物を食い止め、火災の延焼も抑えるなど、地震や津波による被害が軽減され、まち全体の早期復旧や復興につながります。

## 津波避難ビルを増やす

現在、JR清水駅江尻口(西口)付近には、10か所の津波避難ビルが指定されていますが、みなと口(東口)付近には2か所しかありません。みなと口に建設される新しい清水庁舎は、津波避難ビルとしての機能も果たします。また、新しい清水庁舎と江尻漁港、JR清水駅を結ぶペDESTリアンデッキも、津波からの避難に活用できます。さらに、地域全体の津波避難ビルを増やすため、想定される津波の高さに応じた指定の基準を見直し、より多くの企業などにも協力を働きかけます。



津波避難ビル

## 医療救護体制が充実する

清水区の医療救護体制は、拠点病院1施設、救護病院4施設(うち1施設は拠点病院を兼ねる)、救護所16か所となっています。

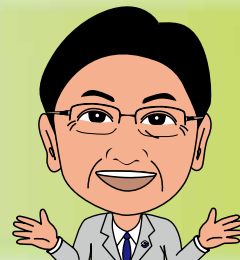
新しいJCHO桜ヶ丘病院は、十分な施設や設備を備え、清水都心にある救護病院として皆さんの命を守ります。





さらに  
そこが知りたい

田辺市長が  
お答えします!



### Q1 JCHO桜ヶ丘病院が現在の清水庁舎の場所に移転することについてどのように考えていますか?

**A** 現在の清水庁舎の場所に移転新築することで、①多くの市民の皆さんが公共交通機関を使って通院しやすくなり、利便性が良くなる②多くの人が来院することにより、清水都心の賑わいや活性化につながるという経済効果が

あると考えています。また、超高齢社会に対応した病院機能、診療科目の充実や救急医療の強化など、市民の皆さんの医療ニーズを踏まえて、今よりも利用しやすい病院となるよう、JCHOと共に取り組んでいきます。

### Q2 津波被害があった場合に、新「JCHO桜ヶ丘病院」は機能しますか?

**A** JCHOが新たに建設する病院を、他都市での病院の先行事例や実績も踏まえ、ピロティ構造※)にすることや発電機などを上層階へ設置することで、地震や津波に十分に対応できる病院になり、津波被害があった場合にも病院機能は維持されます。また、静岡市としては、津波警報が発表された場合や、万が一病院までの陸路によるルートに津波被害があった場合は、ヘリコプターによる搬送手段を確保できるよう検討します。さらに、津波

警報が解除された時から速やかに、がれきなどの除去による道路の復旧を行い、病院までの陸路による患者搬送ルートを確認します。このように、JCHOと市が全力を挙げて対策を講じていきます。



▲ピロティ構造の病院イメージ  
※ピロティ構造…1階部分を柱だけの空間にして2階以上に居住スペースなどを建築する方法

### Q3 現在の清水庁舎は、使用できないのですか?

**A** 現在の清水庁舎は、昭和58年に建設され、30年以上経過していることに加え、海に近いため潮風の影響もあり建築設備などに経年劣化が生じています。そのため、想定される大地震に対しては、壁や天井に一定の被害を受ける可能性があります。

また、浸水によって地下に設置してある電気設備などに被害を受け、業務の継続に支障が生じる可能性があります。今後は、耐震機能の強化や老朽化への対策など、災害時でも業務が継続できるよう、建て替えの必要があると考えています。

### Q4 清水庁舎の移転先候補地は、なぜ清水駅東口公園なのですか?

**A** 清水庁舎の移転先を検討するにあたって、まず市民の皆さんの利便性を重視し検討した結果、地域の広い清水のどこからでも、バスや電車などで来庁しやすく、すでにまちの主要施設が集積している、JR清水駅周辺が望ましいと考えました。次に、経済性です。庁舎の建設に

は一定規模以上の土地が必要ですが、新たに土地を取得するのではなく、すでに市が所有している土地を有効活用することで、大幅に財政負担の軽減が図られます。これらの条件を満たしているのは、清水駅東口公園のため、庁舎の移転先として最も有力な候補地としました。

### Q5 現在の清水庁舎周辺で想定される津波の大きさと被害はどの程度ですか?

**A** 静岡県の第4次地震被害想定によると、清水区におけるレベル2の津波は、現在の清水庁舎の浸水深（陸上での津波の高さ）で、平均1.5m、最大2.2mと想定されています。浸水深が2mを超えても、鉄筋コンクリートの建物は充分耐えられます。

なお、計画されている防潮堤や水門が完成し、レベル2の津波に対しても効果が最大限発揮された場合、現在の清水庁舎の浸水深が0.1mまで軽減されるとの試算もあることから、早期の防潮堤などの整備が期待されます。

### Q6 静岡県が計画している防潮堤はいつ整備されるのですか?

**A** 清水港の江尻から日の出地区については、清水港の持つ多様な機能、景観、経済、賑わいなどに配慮が必要となることから、地元住民や港内企業の代表者、学識経験者、行政機関で構成する「津波防災対策検討委員会」が

静岡県清水港管理局により設置され、「津波防護施設整備計画」が平成27年12月にとりまとめられています。現在の清水庁舎周辺は、防潮堤を平成34年を目標に整備する計画とされています。

### Q7 なぜ、コンパクトなまちづくりが必要なのですか?

**A** コンパクトなまちづくり、都市のコンパクトシティ化とは、住宅、職場、店舗、病院など、生活に必要な機能を中心部に集め、車に頼らず、公共交通機関や徒歩で暮らせるまちづくりを目指すという、近年注目されている都市計画の考え方です。

このようなまちづくりを必要とする理由は、2つあります。1つ目は、人口減少と高齢化社会へ対応するまちづくりが求められているからです。医療、福祉、商業などの都市機能を集積することによって、まちの賑わいを創出し、地域経済活性化の中心核とします。

2つ目は、誰もが分け隔てなく暮らすことができる共生社会へ対応するまちづくりが求められているからです。男性や女性、子どもや高齢者、障がいの有無などにかかわらず、誰もがまちなかにアクセスしやすく便利に暮らせるようにします。

そこで本市では、「第3次静岡市総合計画」や「静岡市都市計画マスタープラン」を踏まえ、JR静岡駅・静鉄新静岡駅を中心とした静岡都心、JR清水駅・静鉄新清水駅を中心とした清水都心、JR東静岡駅・JR草薙駅を中心とした東静岡・草薙副都心の3地区を拠点としたコンパクトなまちづくりを全市的に進めています。

そのうち清水都心では、2つの駅の周辺に清水庁舎、病院、マリナート、ま・あ・る、テルサなどの公共施設を集積することにより、新たな商業施設や企業など民間資本の進出も見込まれ、地域経済の活性化につながります。

誰もが便利で暮らしやすいまちづくりを進め、全ての人々が互いに尊重し合い、共に暮らしていくことができるまちにしていきたいと考えています。



問合せ

- まちづくりに関すること…………… 企画課 ☎221-1002
- 桜ヶ丘病院移転に関すること… 保健医療課 ☎221-1549
- 清水庁舎の移転に関すること… 公共資産経営課 ☎221-1229
- 防災に関すること…………… 危機管理総室 ☎221-1243
- タウンミーティングに関すること… 広報課 ☎221-1354